

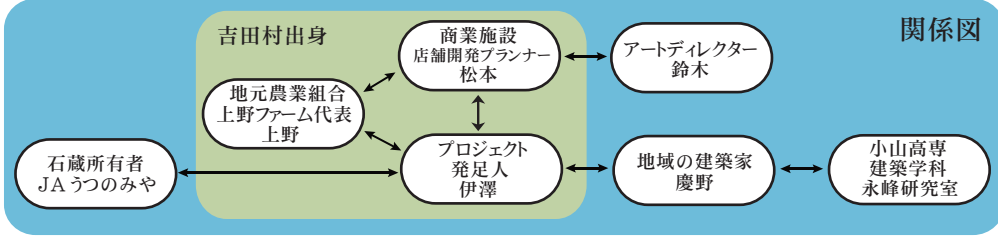
● 吉田村プロジェクト

このプロジェクトは、栃木県下野市の旧吉田農協跡地の再生計画である。JR自治医大駅から車で約10分という立地で、周辺には体育館や幼稚園、駐在所など吉田村の中心施設があり、田園が広がり近くには鬼怒川や江川が流れる(図1)。

平成元年に旧吉田農協が移転するまで、ここでは約65人の人々が働いていた。当時は農協支所の他、生活センター、購買事務所、ガソリンスタンドがあり、昼夜問わず年間を通し多くの人で賑わっていた。農協移転後は人・モノの流れが変わり、農協支所のコンクリート建物と大谷石蔵倉庫以外の建物は解体され空き地となり、数年後にはガソリンスタンドも閉鎖し閑散とした場所となっていた。

本プロジェクトの主要メンバーである伊澤は、都内での仕事経験を経てUターンで地元へ戻り、この旧農協支所建物を改築し、2014年にレストランをオープンした。この伊澤の活動に賛同した地域の仲間たちにより、このレストラン前旧農協跡地広場で同年第一回「吉田村まつり」が開催され、本プロジェクト開始のきっかけとなった。

この跡地広場に面して、旧吉田農協の大谷石蔵が2棟ある。「吉田村プロジェクト」では、現在は倉庫として閉ざされているこの石蔵を保存転用活用し、この旧吉田農協跡地に賑わいを取り戻し、更に村の活性化を図るプロジェクトである。



● 活動実績

2014年	旧農協支所建物改築 イタリアンレストラン オープン 第1回吉田村まつり
2015年7月	吉田村プロジェクト発足
8月	大谷石蔵実測調査・図面作成、模型製作
10月	第2回吉田村まつり、JA うつのみやへのヒアリング調査
11月	座談会

● 大谷石蔵の概要

石蔵倉庫は2棟あり、東棟は27.5m×9.2m、西棟は18.2m×9.2mの平面である。内部は一層空間で、小屋組は木造トラス現し切妻屋根であり、天井高さは約5.5～8mである。東棟は3分割、西棟は2分割に内部間仕切り壁があり、各室に扉と高窓があり、各室平面は約9m×9mのほぼ正方形である。各棟は築50年以上経過していると推察され、石材の表面は回転式の丸ノミで切り出されていることが観察できる。これより古いものは、手作業による切り出しが行われており、表面加工技術の用い方が判断できる。今後、活用転用計画をまとめ、耐震補強等含め増改築設計を進める。



図7 石蔵倉庫模型

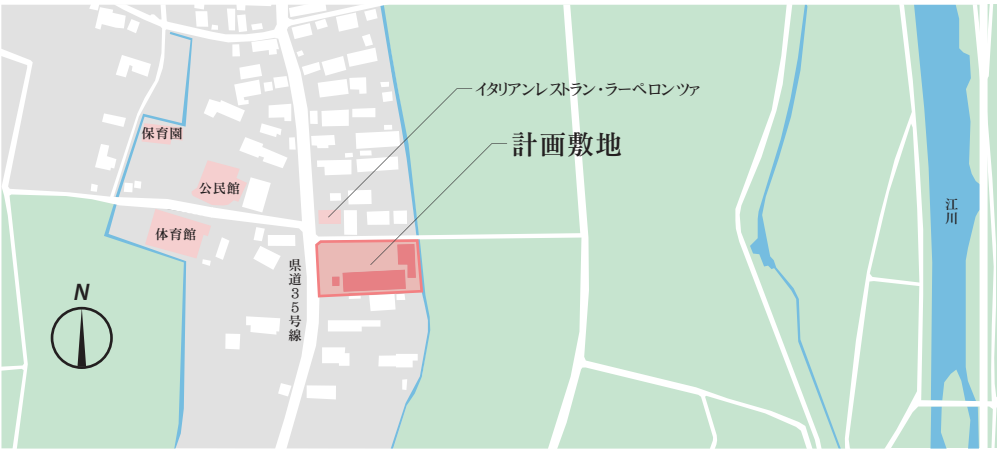


図1 計画敷地周辺図

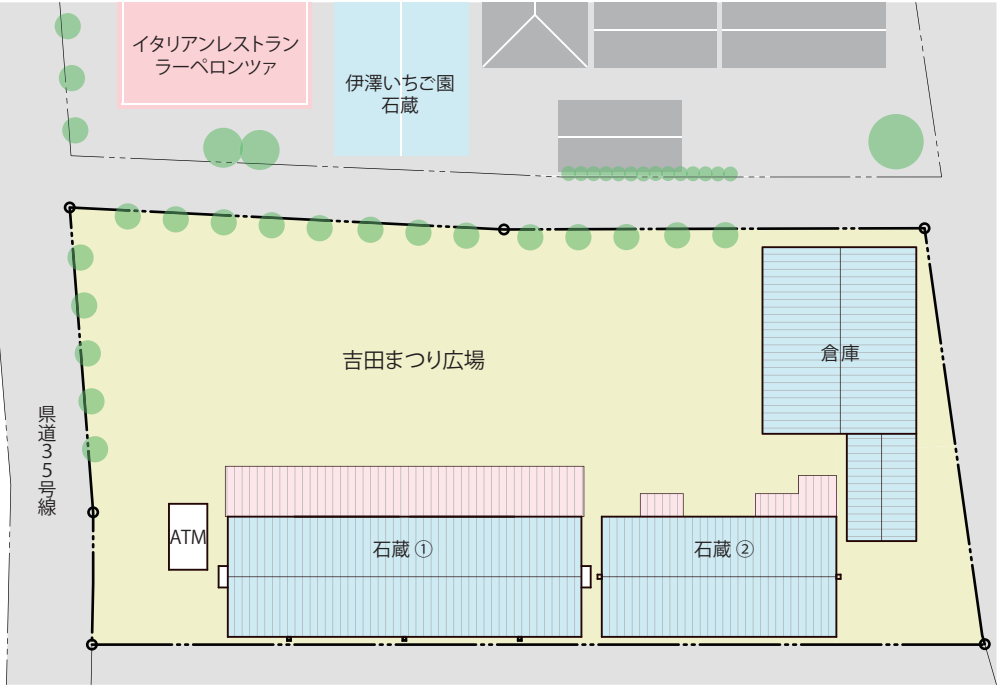


図2 現況平面図 S=1/600



図3 現地での模型紹介



図4 大谷石蔵



図5 吉田村まつりの様子



図6 吉田村まつりの様子

活動部門

建築物の保存問題全般

吉田村プロジェクト

このプロジェクトは、旧吉田農協の大谷石蔵倉庫を再生することで、地域に賑わいを取り戻そうという活動である。

プロジェクトメンバーの一人である伊澤は、2014年に旧吉田農協支所建物を改築しレストランとジェラートショップをオープン、この活動に賛同した地域の仲間と「吉田村まつり」というイベントを開催し、県内外から約3000人の来場者が訪れる。この活動メンバーと、現在多くの地方都市が抱える人口の減少と少子高齢化、地場産業の停滞などの問題を共有した上で、この地域の魅力は何か探る機会となっている。

また大谷石は栃木県の代表的な県産材であり、大谷石蔵のある風景はこの地域では馴染み深いものである。一方、震災等で多くの石蔵建築が取り壊されるなど、そのメンテナンスも含めた活用調査計画は貴重な資料の一つとなる。大谷石蔵の風景をデザインし、今後商業施設や宿泊施設などこの場所にふさわしい保存活用計画を検討していく。



応募代表者
永峰 麻衣子／ 小山工業高等専門学校建築学科

メンバー
慶野 正司 ／ 有限会社 アトリエ慶野正司 一級建築士事務所
伊澤 敦彦 ／ 有限会社 伊澤いちご園
松本 裕功 ／ フリーランス
鈴木 裕也 ／ フロントデザイン
内田 直登 ／ 日本大学理工学部建築学科